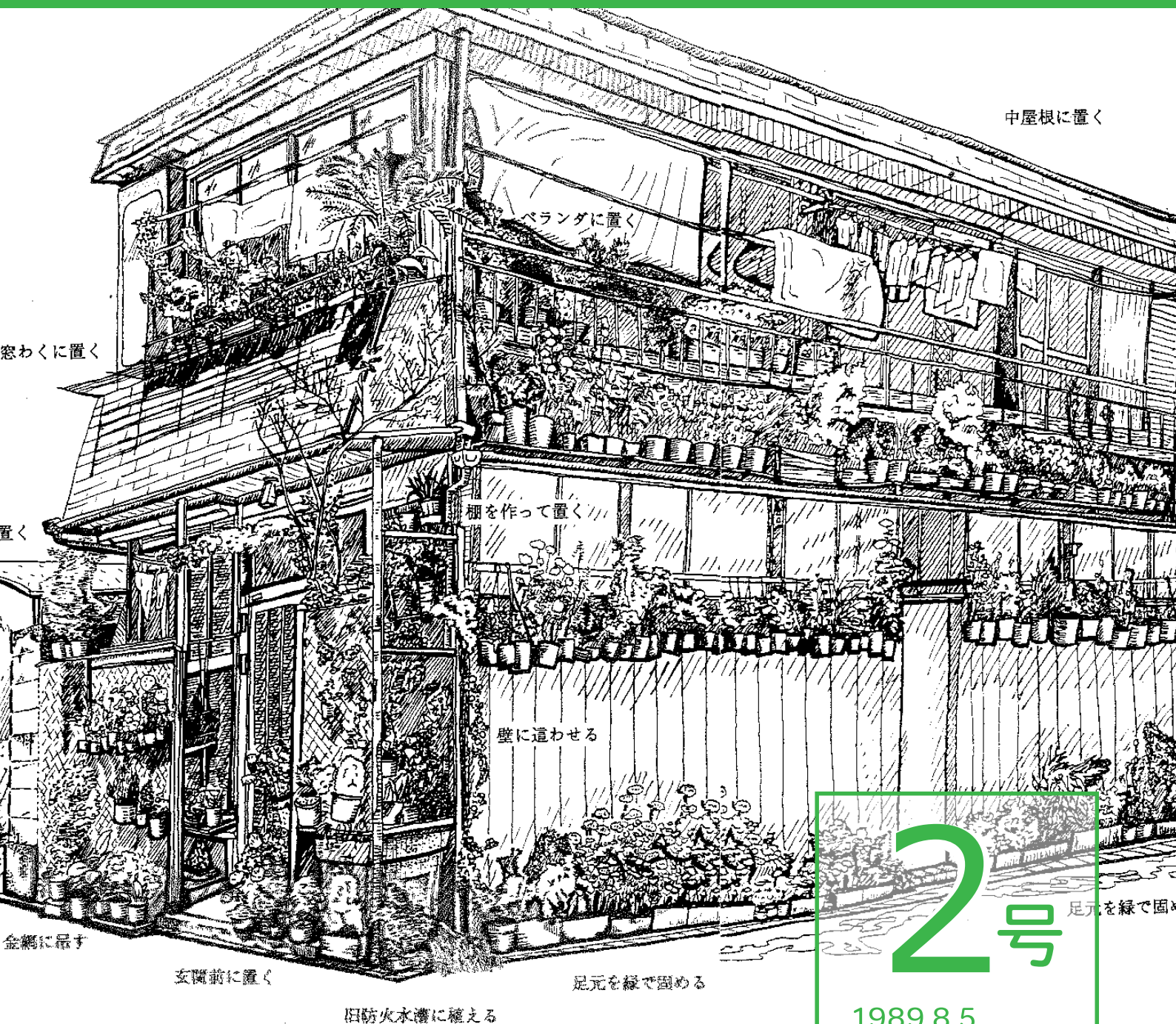


Downtown Story

# 荒川緑凶鑑

調査ノート



2号

1989.8.5

荒川探偵団

## はじめに

空からみて、緑色に見える部分の割合—緑被率というらしい—を23区で比べてみると、荒川区は7.4%で、23区中22位という誇らしくない成績である。（それでも58年度の調査の3.3%、最下位からは脱出を遂げた。）公園面積は一人当たり1.1mで、東京都の平均2.9mをはるかに下回っている。一人当たりの樹木本数も、・・

というように緑のことで指標として統計上に上がってくる数字はみんな低い。荒川区では汚名を返上しようと、急ピッチで公園・街路樹の整備を進めており、どんどん緑は増えつつあるといっても、データで見ると限りはまだまだ、“緑貧乏”な区である。

だけれどもこの街の緑はほんとに貧弱なんだろうか？私たちのほとんどが今回はじめて、緑を気にしながら荒川の街を歩いたのであるが、皆が意外な緑の豊富さ、存在する形の面白さに驚いた。確かにここには芝生の気持ち良い大きな公園も、堂々たる並木道も、鬱蒼とした木の繁る広大な庭園もない。庭のある家だって少ない。しかしたいていの道に、路地に、花や緑があふれている。植木鉢は庇からぶら下がり、戸口の前に並び、電柱にさえくくり付けられる。ツタは壁をよじ登り、ほんのわずかな隙間から大きな木がによっきり生える。・・この街の緑は、貧しくない。

緑といってもいろいろあるけれど、荒川の街を歩いていて、ごく普通に目にとまり、かつココロひかれる緑の数々—あえていうなら、街へ表出する私的な緑・・がこの本の主役です。

1989.8.5

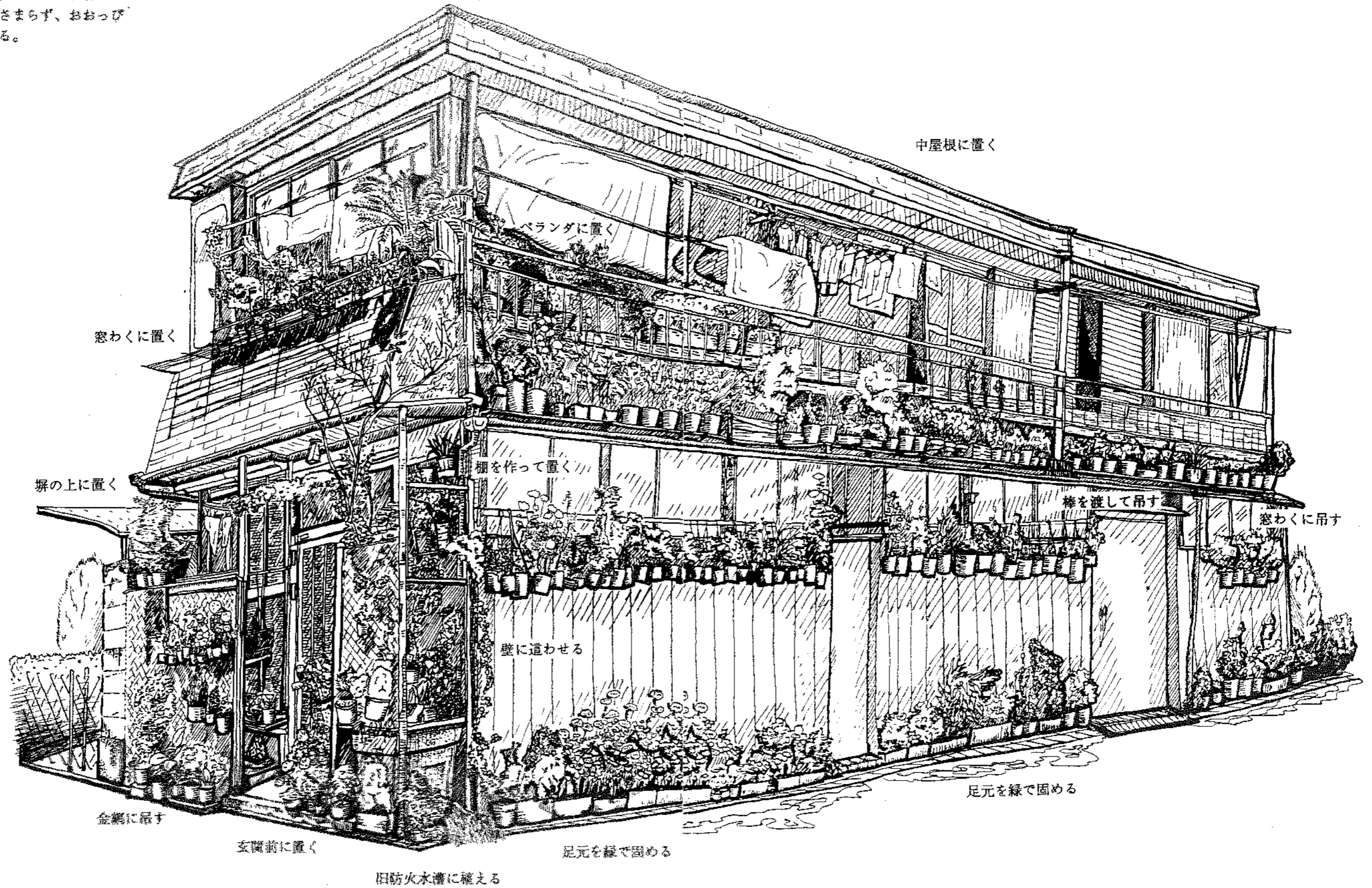
# 1 形態編

---

園芸屋敷	-1-
ツタ屋敷	-3-
ポストのまわり	-5-
塀のいろいろ	-7-
廃物利用	-9-
グリーンストリートファニチャー	-11-
わずかな隙	-13-
ビルの上のジャングル	-15-
はみ出す緑	-17-
はみ出す緑-報告その1<3本の通りの調査結果>	-19-
はみ出す緑-報告その2<七五三通りの調査結果>	-21-
はみ出す緑-報告その3<カンカン森通りの調査結果>	-23-
はみ出す緑-通り歩道にはみ出す10の方法	-25-
立体利用15態	-27-

# 園芸屋敷

園芸好きの人はどの街でもいる。しかしこの街ではたまたま庭のある家が少ないから、塀のなかのひそやかな趣味にはおさまらず、おおっぴらに道行く人々にさらされる。



# ツタ屋敷

ツタのからまるチャペルはないけれども、ツタ屋敷ならある。家の壁にツタが這っているというより、内側が家になっているツタの塊というほうが当たっているかもしれない。

ツタ屋敷—荒川区 東日暮里



正面 ツタをかきわけて家にはいる。

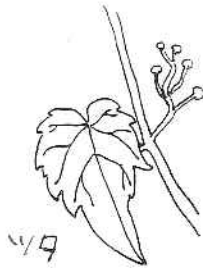
側面 わずかに覗く窓。



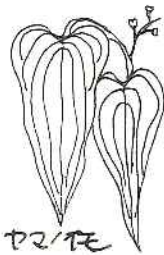
いっしょくたにツタと呼んでしまっているが、その種類はいろいろである。キツタ、テイカカズラ、アイビー、・・・秋頃には真っ赤に紅葉するものもある。



ヤマブシ



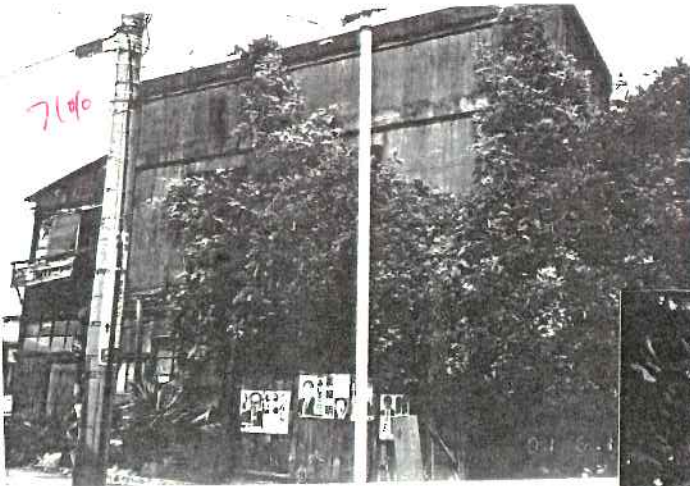
ツタ



ヤマモモ

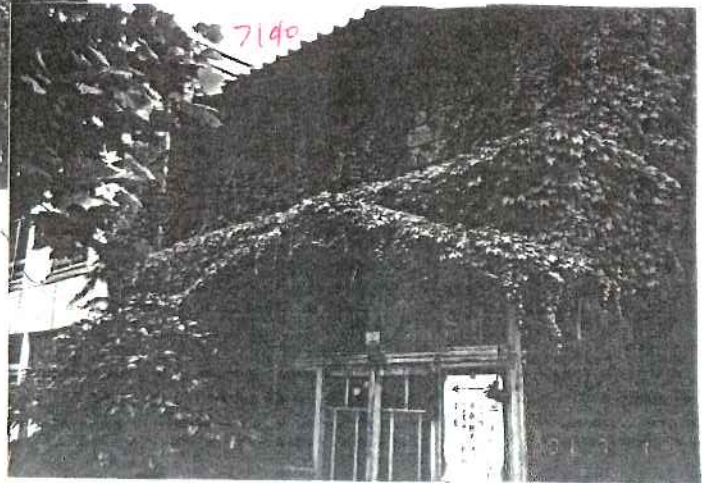


南千住 ツタ煙突



荒川

フジ屋敷、ヤマブドウ屋敷なんてのもある。ロマンチックなものを想像されると困るけど、それでも花の咲く季節には夢のような美しさであります。



東日暮里

# ポストのまわり

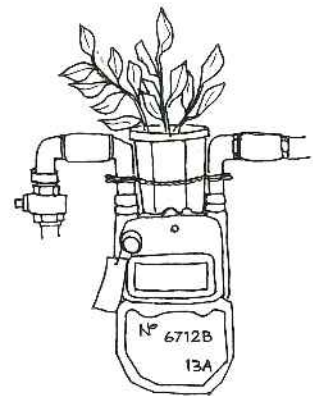
ポストのまわりはたいていその家の顔です。ゆえに、いろいろ緑で飾られて?いる。



南千住

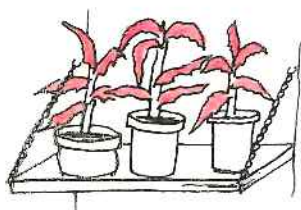


花屋と見まがう・・・家の中にも小さな鉢が並んでいる 荒川



ミニ水田

東日暮里



扉の上のつり戸棚にアロエの鉢が3つ

東尾久



ドラム缶の上の彩り

東日暮里



東尾久



荒川 サボテンのバケツ植えがひとつ。荒川のワビサビ



荒川



東日暮里



# 塀のいろいろ

近ごろ塀は圧迫感を与えるものと割と分が悪い。道も宅地も狭いこの街では、確かに窮屈だけど、チャーミングな塀もあります。



黒板塀にオシロイバナ  
西日暮里



穴から覗くヤマブキ  
東日暮里



由緒正しげなレンガ塀  
西日暮里

関西の下町・・・大阪・庄内の塀  
庄内は住工混在の低層高密度住宅地で、荒川とよく似た街です。ここで見つけたチャーミングな塀を御紹介。

- ・1m未満、腰くらいの高さの塀。自分がガリバーになったような錯覚が起きる。
- ・穴が開けてあったり、デコボコしていたり—と多様なテクスチャーを持つ。
- ・植物が塀の上ののっかったり、穴から覗いたりする。



# 廃物利用

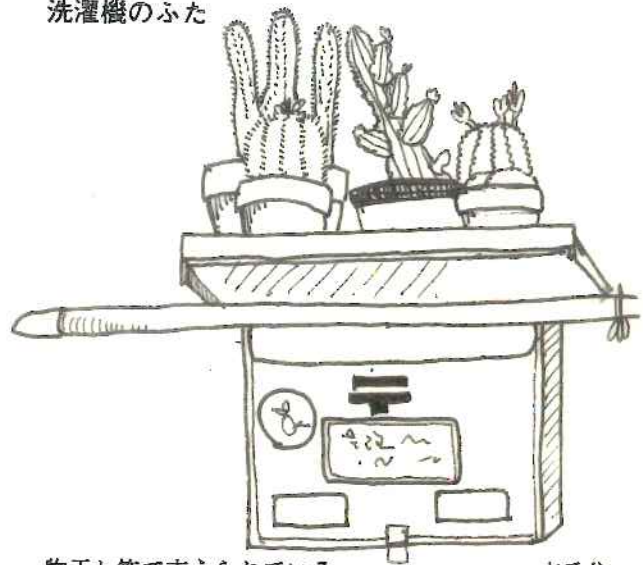
廃物利用は創造的行為です。

バケツ



南千住

洗濯機のふた



物干し竿で支えられている

南千住

ヤカン



東尾久

塩化ビニールの管



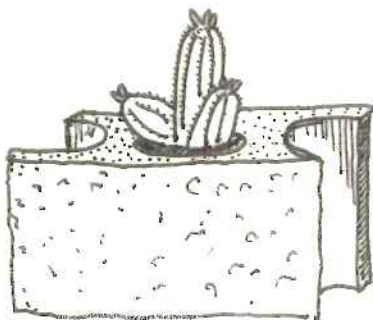
荒川

中に土がたまっている

ハシゴ

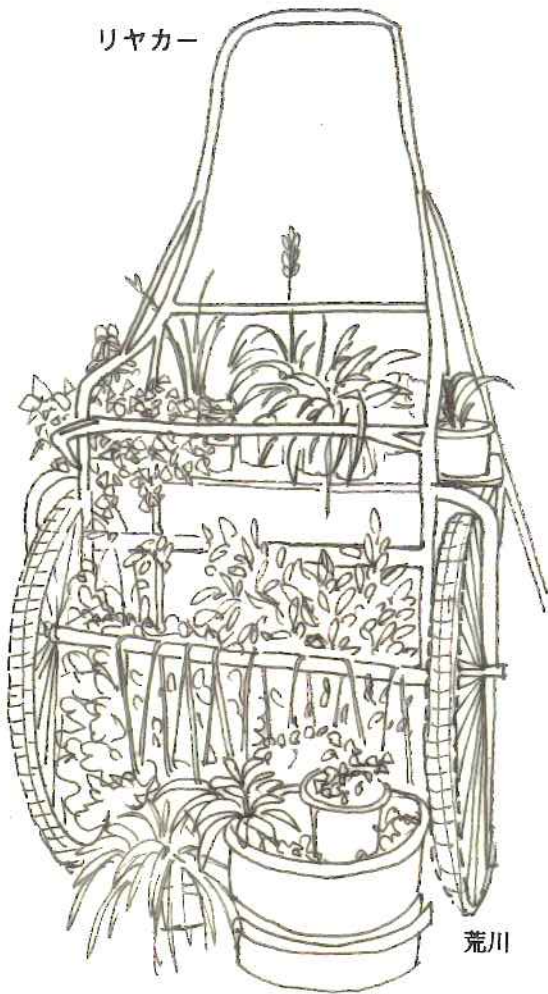


荒川



東日暮里

リヤカー



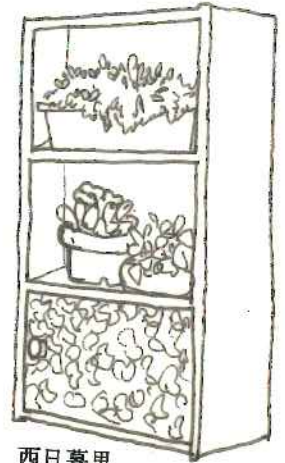
荒川

トロ箱



東日暮里

本棚



西日暮里

温室2態

1.ゴミ箱

昔使われていたセメント製の物にガラスが張られている



2.水槽

南千住



南千住

自転車のカゴ



鳥カゴ

東日暮里

# グリーンストリートファニーチャー

ストリートファニーチャーとは街路空間に置かれる屋外家具類の総称をいう。主として商店街の整備などに使われるベンチなどのことをさすが、ここでは自然発生的に出現した、超規格外創作街具を紹介する。縁台などの個人的なものから、路地の入り口に設けられた車止めのような共有物まである。廃物と緑の組み合わせたものが多い。



鉄の管から生えるジンチョウゲ  
ポップなペインティング

西日暮里



灰皿スタンドに生える

南千住

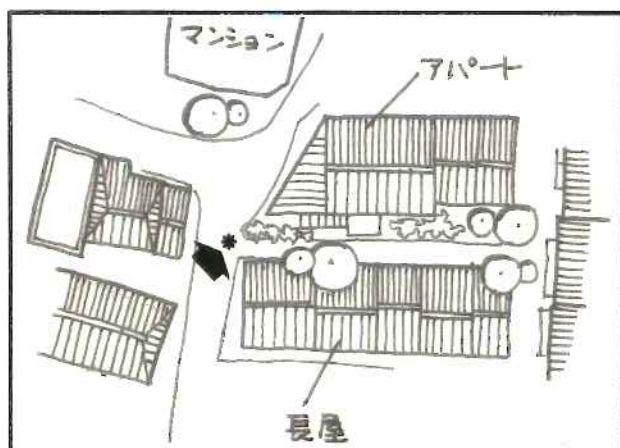


学習いすの上のホテイアオイ

東日暮里

車止め一車の侵入を防ぐのみならず、関係ない人はこれによってなんとなく入りにくくなる。

東日暮里



# わずかな隙

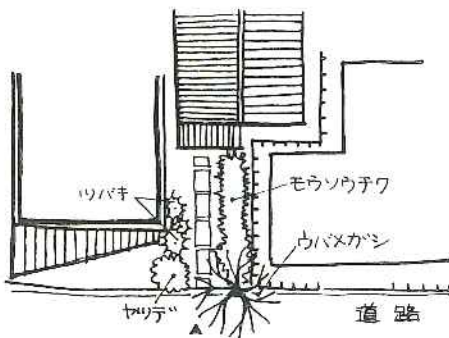
土地がなくても緑は育つ。家屋と路地の隙間に生えた、とるにたらない木もやがて大木になる。わずかな隙に、金魚だって棲んでいる。



東日暮里



30cmにも満たない隙間から、  
12mのトウカエデ 東尾区



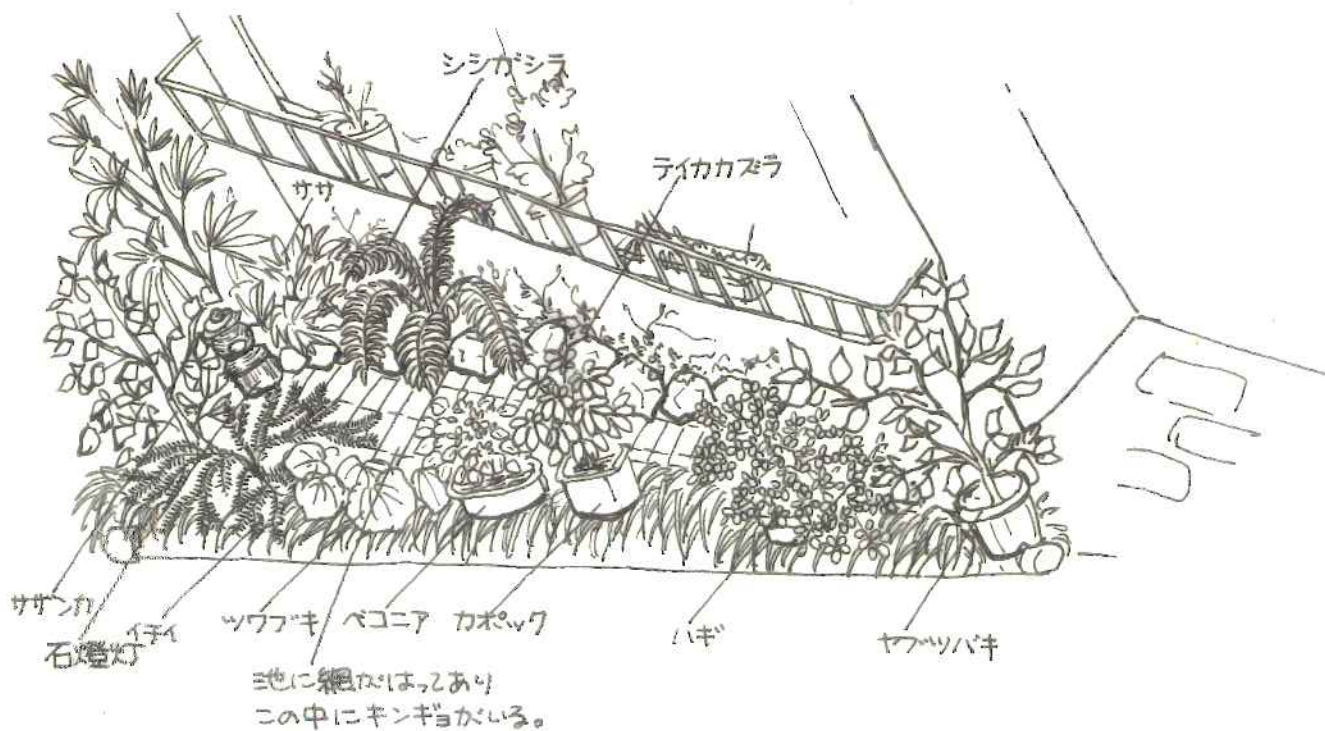
鬱蒼とした竹林も30cmの隙間  
西日暮里



金魚のいる隙間



路地と家とのちょっとした隙間にできた風雅な日本庭園  
西日暮里





## ビルの上のジャングル

---

今まで見てきたように、荒川には空から見える緑が少ないので緑被率が低い。しかしその逆・普通に歩いているとうっかり見逃してしまうが、高い所から見ると実に鬱蒼とした緑がビルの屋上に隠されているのが見つかる。





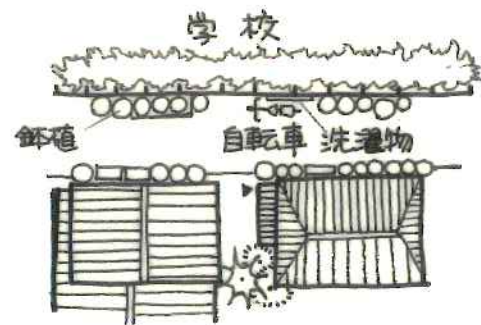
# はみ出す緑

個人の緑は、しばしばその敷地内に収まり切れず、路上にはみ出したり、



東尾久

道路を隔てた向こうにもちっかり植木鉢が並んでいる場合もある。



たとえば、線路沿い、学校、大きな工場の周り..

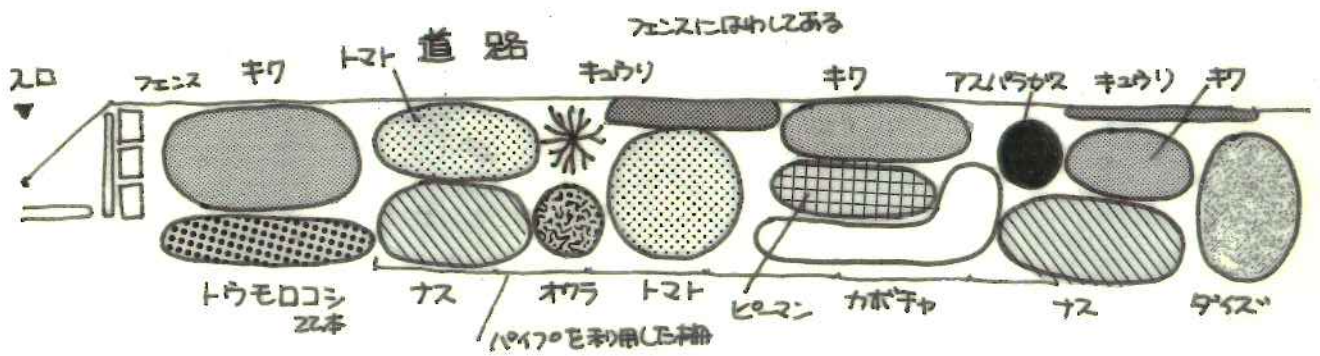
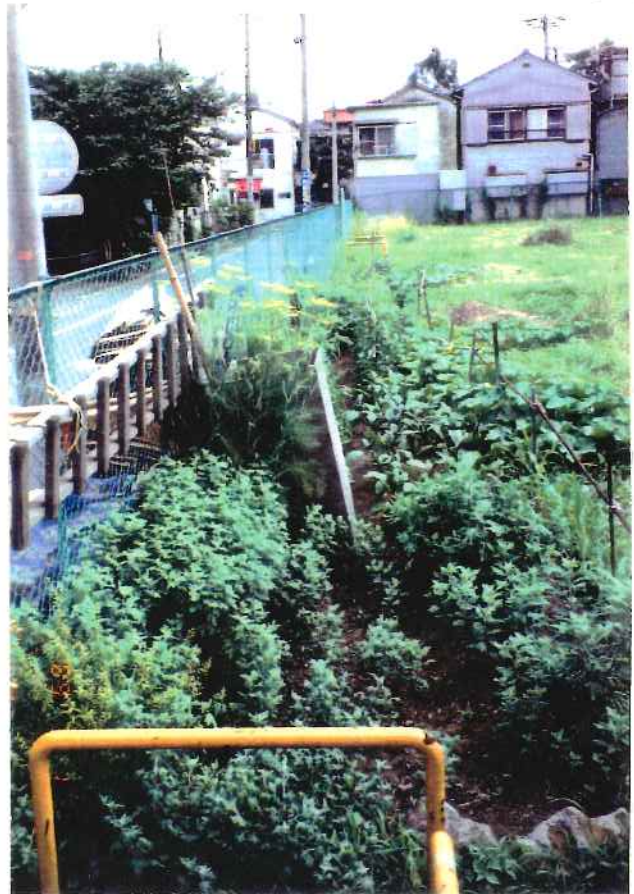
はみ出し畑

工場跡地の原っぱ（区の管理の空き地であるが、一般にも解放されている。）に、前に住む人の手で私的な家庭菜園がつけられている。



はみ出し畑のなすびの花

東尾久



トウモロコシ



キュウリ

## はみ出し緑—報告その1<3本の通りの調査結果>

荒川区は、歴史や文化、伝統が比較的残されているまちだという。長い時間の中で培われた下町人情や様々な物語がひとつひとつの路地や街区の中から読み取れる数少ない地域でもあるそうだ。区域の半分が、戦災を免れたことや自然発生的な市街化が進んだためか、道路は狭く、曲がりくねっており、公共施設等の未整備な過密・混在の低層老朽木造の多いまちでもある。

緑被率7.4%のためか「みどり貧乏区」といわれる荒川のまちを歩いてみる。気付くことが、いろいろとある。……ブロック塀が異常に少ないこと（敷地面積が小さいためか）／大木や雑木林が見当たらないこと／生け垣がないこと／小中学校の校庭が狭く、緑が少ないこと…等々

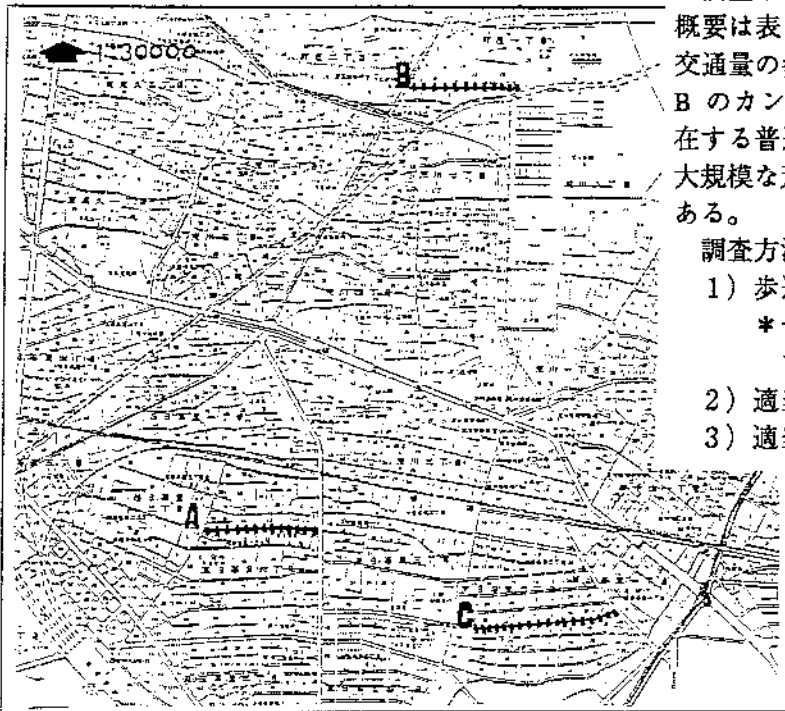
みどりみどりと思って歩いて、目に入るのはやはり道路や路地にはみ出した植木鉢などである。よく見ると様々な形の鉢類がある。トロ箱や木箱、空灌、ひばちなどが新たな命を伴ってみちに氾濫している。草花の育て方が面白い。こだわる人はいろいろと工夫をする。きれいなものや良いやり方は周囲に伝播するし、貢献もするようだ。通りに緑や花が溢れると、その一面のイメージはなごやかになる。

路地のはみ出し緑は、荒川以外のまちでも見ることができる。その工夫の一端は、他の団員が調査している。<はみ出し緑>に注目しつつ広い道路を歩くと、歩道部分にも<はみ出し>が見られる。それも街路樹や植栽帯の間にはさまっているから、<はみだし緑>のバリエーションがすごい。これからご紹介するのは、公道歩道部分での住民たちによる<はみ出し緑>の一部である。

調査したのは、左図に示す3本の道路。その概要は表に整理した。Aの七五三通りは、車両交通量の多さに比べ、人通りはさほど多くない。Bのカンカン森通りは、荒川の最寄り商店が点在する普通の通りである。Cの博全社通りは、大規模な斎場があり、人通りの賑やかな通りである。

調査方法は以下のようにおこなった。

- 1) 歩道部にある植え樹全ての樹種を調べる  
\*一つの植え樹に数本の同一樹種があっても、一本と数えた。
- 2) 適当に選んで、写真、スケッチをする
- 3) 適当にヒアリングをする



◆報告その1

全樹種総数は、あまり多すぎて残念ながらチェックしきれなかった。各植え樹リストを作成して主な樹種の種別を整理すると、3本の通りの総計で172種類確認できた。そのリストは右図に示すとおりである。2～3Mに1種類の割合で異なる樹種に出会うことになる。(植え樹の総数143) また、植え樹の約8割程度に<はみ出し緑>が見られた。

オモト	12.2%	サンショ	1.7%	イチゴ	
アロエ	11.0%	シダ	1.7%	イチシウ	0.6%
アジサイ	8.7%	シャコハ	1.7%	ウメモドキ	0.6%
キク	8.7%	スイセン	1.7%	エリカ	0.6%
ヤブデ	8.7%	スミシ	1.7%	カリン	0.6%
ハナ	8.1%	クカラノキ	1.7%	カミミア	0.6%
ナンテン	7.6%	ツキミソウ	1.7%	キキョウ	0.6%
クチナシ	7.6%	ツワブキ	1.7%	ギンドロ	0.6%
シンチョウゲ	7.0%	トウカシ	1.7%	クマササ	0.6%
シソ	6.4%	ヒイラギ	1.7%	コーヤマキ	0.6%
オリスルラン	5.8%	ヒイラギナンテン	0.6%	オウキツツジ	0.6%
ハラン	5.8%	ヒメリンゴ	1.7%	サルビキ	0.6%
ヒワ	5.8%	ヒラカン	1.7%	シクラメン	0.6%
ミカン	5.8%	ムクゲ	1.7%	スキ	0.6%
ササ	5.2%	モミシ	1.7%	チャ	0.6%
セウニウム	5.2%	ヤマモミシ	1.7%	ブユクサ	0.6%
ヒメグイダイ	5.2%	ユズ	1.7%	トウカエデ	0.6%
ウメ	4.7%	アイビー	1.2%	トハラ	0.6%
ツツシ	4.7%	アイリス	1.2%	トマト	0.6%
?	4.1%	アスナロ	1.2%	ニチニチソウ	0.6%
アオキ	4.1%	オイランソウ	1.2%	ニラ	0.6%
アサカオ	4.1%	キョウチクトウ	1.2%	ニワウルシ	0.6%
オシロイハナ	4.1%	キンモクセイ	1.2%	ハギ	0.6%
タマゴト	4.1%	クワ	1.2%	ハコヤナギ	0.6%
ネズミモチ	4.1%	クリ	1.2%	ハセリ	0.6%
ワラン	3.5%	サボテン	1.2%	ハネタン	0.6%
ジャムベ	3.5%	シハチクワ	1.2%	ヒメシロハナ	0.6%
ツバキ	3.5%	シュロ	1.2%	ヒサカキ	0.6%
ノバラ	3.5%	タリア	1.2%	ヒルガオ	0.6%
マツ	3.5%	ツルムラサキ	1.2%	ペパーミント	0.6%
カンナ	2.9%	ナス	1.2%	ベンジャミン	0.6%
ヘゴニア	2.9%	ビラカンサ	1.2%	ホウセンカ	0.6%
センリョウ	2.9%	フェニックス	1.2%	ホケ	0.6%
ムラサキシキブ	2.9%	ミツハ	1.2%	ボトス	0.6%
ケヤキ	2.3%	キブコウジ	1.2%	マツハハネ	0.6%
ササノカ	2.3%	ヤマブキ	1.2%	マメイヌ	0.6%
マンリョウ	2.3%	ユズリハ	1.2%	マメツグ	0.6%
モミ	2.3%	リュウキンカ	1.2%	マリーゴールド	0.6%
レンギョウ	2.3%	リュウゼツラン	1.2%	ムラサキツユクサ	0.6%
イチゴ	1.7%	リボンガシ	1.2%	ムラサキラン	0.6%
オムラサキツツ	1.7%	コノチガシ	1.2%	モッコク	0.6%
カボック	1.7%	アキニレ	0.6%	ヤマブドウ	0.6%
カボック	1.7%	アマチャズル	0.6%	ユキヤナギ	0.6%
オクラ	1.7%	アヘリア	0.6%	ラン	0.6%

◆報告その2

3本の通りで樹種構成に少しづつ違いが出ているのに御注目!

隣近所で種や挿し木のやり取りをしたり、鳥や風で自然に増えたりするためか、通りごとに樹種の特徴が出ている。

特に、博全社通りの場合、斎場があるためにキクが最も多く、また他ではあまりみられないミカンやネズミモチ、クワ、ノバラが多い。

1	オモト	12.2%
2	アロエ	11.0%
3	アジサイ	8.7%
4	キク	8.7%
5	ヤブデ	8.7%
6	ハナ	8.1%
7	ナンテン	7.6%
8	クチナシ	7.6%
9	シンチョウゲ	7.0%
10	シソ	6.4%

三好株

1	オモト	15.1%
2	クチナシ	11.3%
3	ササ	9.4%
4	ハナ	9.4%
5	アロエ	7.5%
6	ウメ	7.5%
7	オシロイハナ	7.5%
8	シソ	7.5%
9	ヒメグイダイ	7.5%
10	ヤブデ	7.5%

カンカン森

1	アロエ	18.1%
2	オモト	12.0%
3	ナンテン	10.8%
4	アジサイ	8.4%
5	オリスルラン	8.4%
6	クチナシ	8.4%
7	シソ	8.4%
8	ヤブデ	8.4%
9	ササ	7.2%
10	シンチョウゲ	7.2%

博全社

1	キク	25.0%
2	ミカン	22.2%
3	ワラン	16.7%
4	アジサイ	13.9%
5	ヒワ	13.9%
6	ヤブデ	13.9%
7	クワ	11.1%
8	ネズミモチ	11.1%
9	ノバラ	11.1%
10	ハラン	11.1%

◆報告その3

歩道植栽部分の<はみ出し緑>の管理は、たいていが前の家の人がしている。その実態の一端を次の4ページに整理した。

# はみ出し緑—報告その2〈七五三通りの調査結果〉

・殺風景なので植えている。通りすがりの人がいたずらしたりする。エリカは寒さに弱いので日が暮れたら家の中にしまう。ここが一番日が当たるし、見た目にいい。

・クコ<ツル科>は近所の人引っ越しのときにおいていった。大きくなってしなってしまうので、隣のおじさんが見かねて、支柱を取り付けてくれた。

・商売柄、人出入りが激しく、木が折れたりしてそのうち枯れてしまう。間があいてみともないので植える。・オシロイバナは初め子供が学校からたねをもってきて植えた。それ以来毎年生える。11月になったら枯れる前に取ってしまう。・クリは店の売れ残りを植えたら大きくなった。



・アサガオは入谷の朝顔市で買ったもの。街路樹に紐を結び付けて、つるをはわしているのは、高くはわしたほうが見た目もいいし、日陰もできるから。それに、自動販売機で飲み物を飲む人も涼んでくれるし、いいアイデアだと思う。

・菊は谷中の菊祭で買った。植え替えたら毎年咲くようになった。ホオズキ市のホオズキはすぐ枯れてしまうんだけど、これは夏の証換品みたいなものだから、毎年買って木にぶらさげている。

・植木の世話をしていると、近所の人があましたもの等を持ち込む。買ったものは一つもない。・人が木をまたいだり、車の戸の開け閉めで、木が痛んで枯れてしまう。そうすると間の空いたところに、いつの間にか鉢植え等が捨てられていたりする。・水はたいてい朝晩やる。気がついたら草取りをする。・(ヒメリンゴ、カリンの)実をちぎるなどひどいことをする人がいる。たいていの人、知らない人でも、きれいだと褒めて喜んでくれるのに。





# はみ出し緑—報告その3 <カンカン森通りの調査結果>

・買ったヤマブドウの苗がどんどん大きくなったので、植え樹全体に支柱をたてた。きちんと手入れするときれいだし、実もちやんとなって楽しめる。

・アサガオは入谷の朝顔市に毎年いくので、それで種も採れるんだけど、種から蒔くとやはり花も小さいし色が悪い。ヒマワリはたいてい種をとっていて次の春に蒔くんだけど、これも毎年繰り返すと立派な花は咲かなくなる。チュウリップの球根も植える。夏が一番賑やかで、名前は良く知らないけれど、とにかく花で一杯になる。

・3、4年前にスイセンを植えたら根がついて、毎年咲く様になった。・もともとあった木が薄くなるので自分のものを植えるがそうするとますますもとの木が痛む。  
・街路樹があると落ち葉を掃除しなければならなくて面倒だがやはり木はあった方がいい。



・街路樹ができるときにどうせいろいろ面倒だろうからやめろって役所にいった。やっぱり手入れをしないとすぐに痛んでしまう。

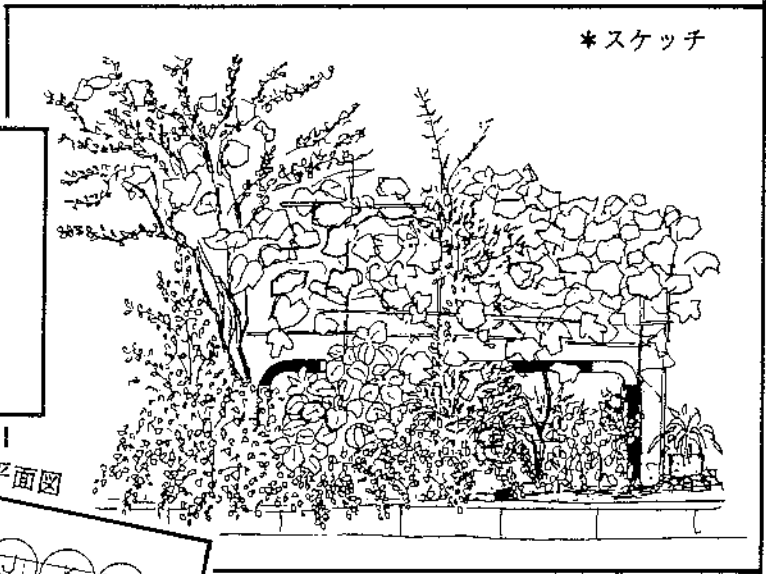
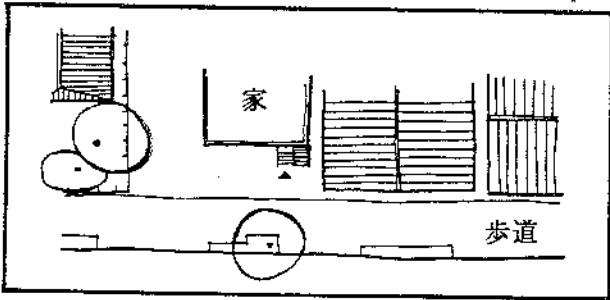
・毎朝早く起きて世話をする。夏は草とりが大変だが自分の家の玄関の続きの様なものだから。

・親が残していったのなので、枯らすわけにもいかずに育てている。・毎朝早く起きて世話をする。夏は草とりが大変。  
・ツツジは役所が植えたものだから本当はまずいと思っている。でもみんなやってるし。通るのに邪魔にならなければいいと思う。

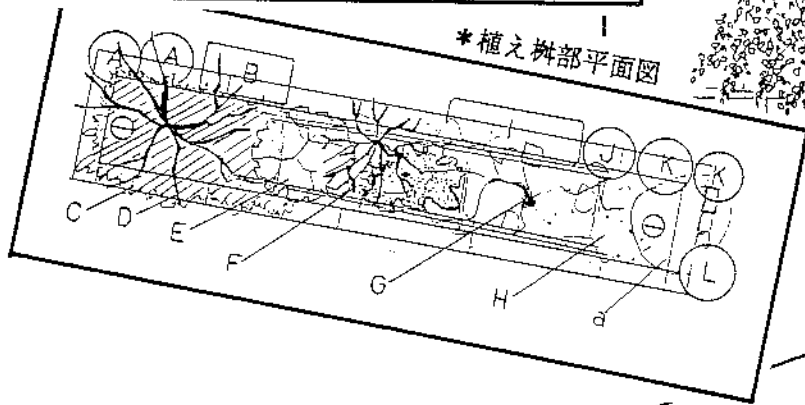
(ロ) のくはみ出し緑

\*スケッチ

\*平面図

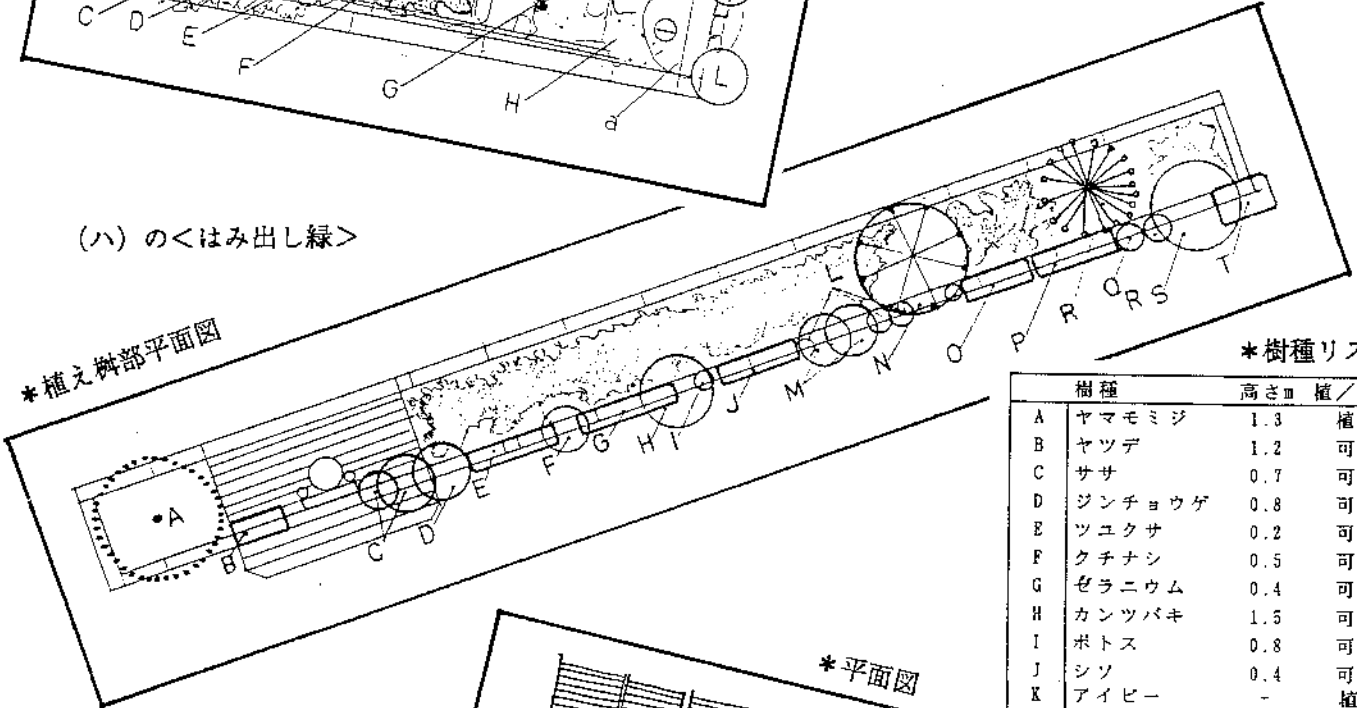


\*植え樹部平面図



(ハ) のくはみ出し緑

\*植え樹部平面図

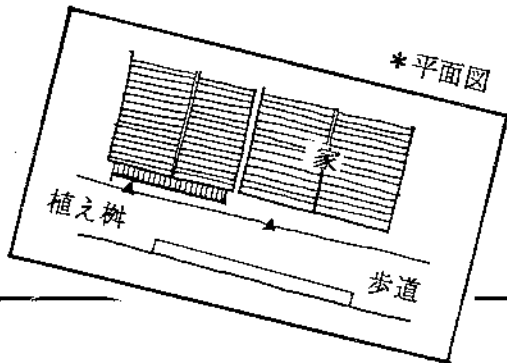


\*樹種リスト

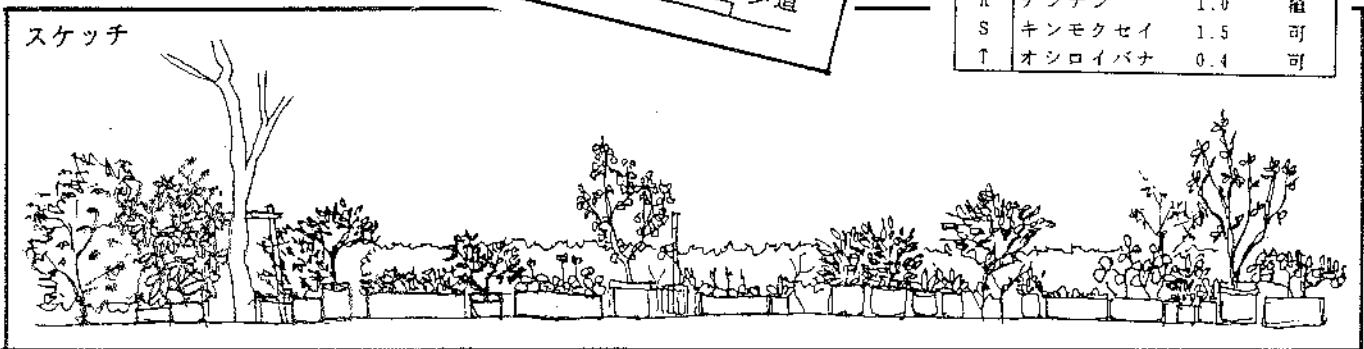
樹種	高さm	植/可
A ヤマモミジ	1.3	植
B ヤツデ	1.2	可
C ササ	0.7	可
D ジンチョウゲ	0.8	可
E ツユクサ	0.2	可
F クチナシ	0.5	可
G ゼラニウム	0.4	可
H カンツバキ	1.5	可
I ポトス	0.8	可
J シソ	0.4	可
K アイビー	-	植
L オモト	0.3-0.4	可
M ヒメダイダイ	0.6	可
N クチナシ	0.8	植
O ムラサキシキブ	0.6	可
P アジサイ	0.5	可
Q ギンドロ	0.3	可
R ナンテン	1.0	植
S キンモクセイ	1.5	可
T オシロイバナ	0.4	可

\*平面図 \*

\*平面図



スケッチ



# はみ出す緑—歩道にはみ出す10の方法

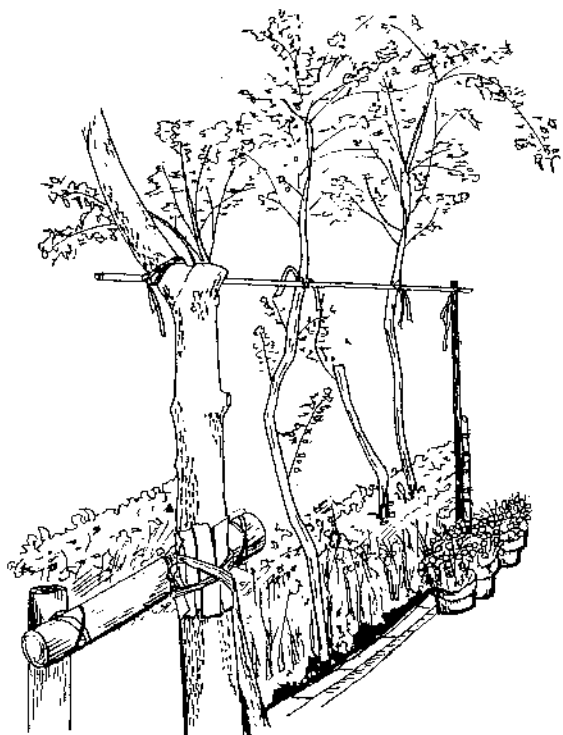
くくる



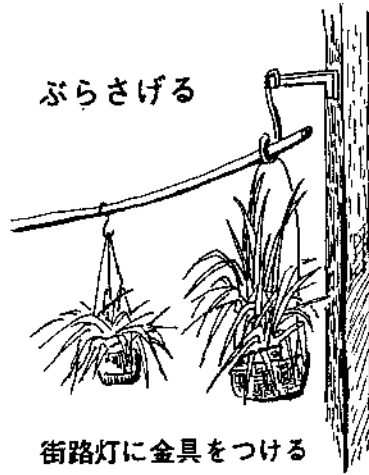
街路樹に直接くくる  
例は抱き合わせるタイプ  
他に街路樹の股に置いて  
紐で縛る場合もある。  
東日暮里



街路樹の支柱にくくる  
東日暮里

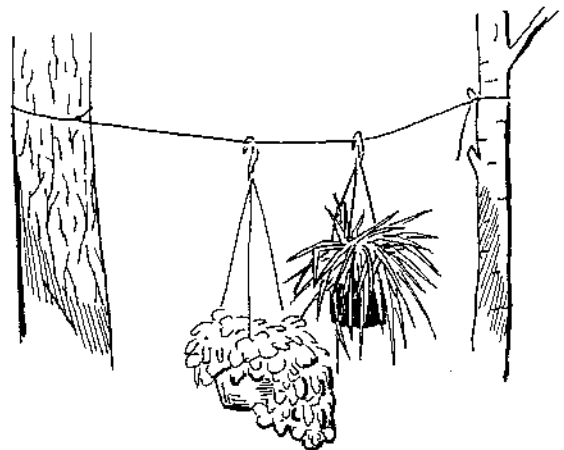


支柱と街路樹を組み合わせてくくる  
東日暮里



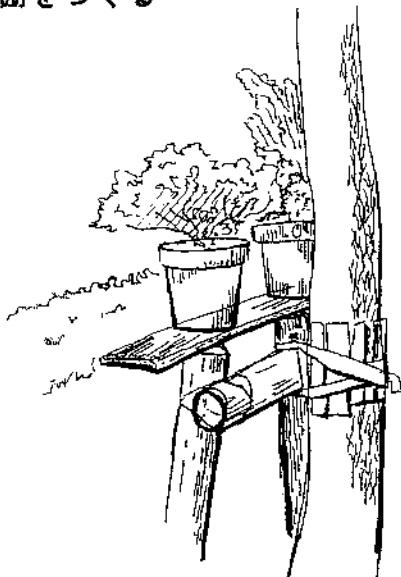
ぶらさげる

街路灯に金具をつける  
町屋

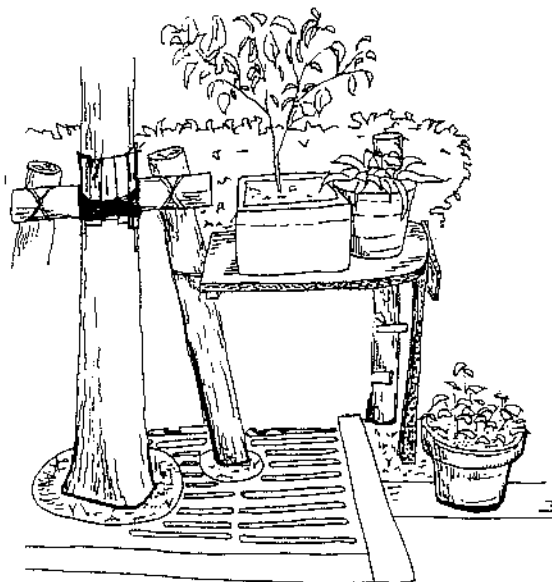


木と木の間に紐をわたす  
左の木は街路樹、右の木は私的なはみ出し木  
東日暮里

## 棚をつくる



支柱の上に板をわたした簡単なもの  
東日暮里

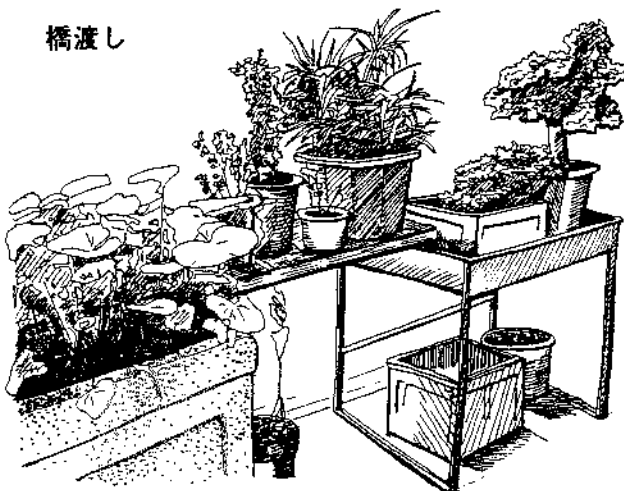


支柱の側面にくくられた棚  
東日暮里

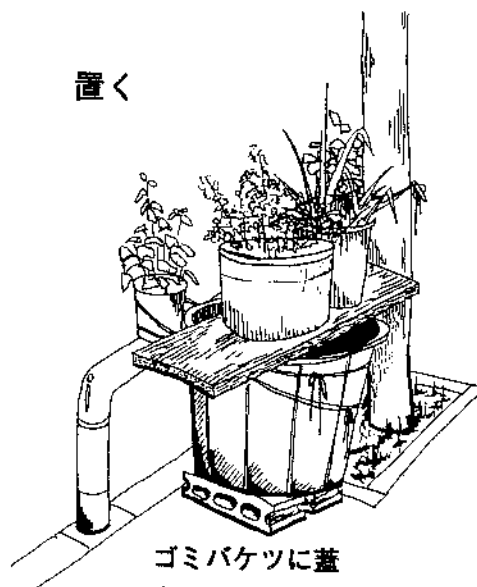


ガードパイプに棚を吊る  
市販の棚セットが使われている

## 橋渡し



## 置く



ゴミバケツに蓋  
東尾久

# 立体利用 ⇨ 15 態

前ページで紹介した手法が組み合わせられ、工夫され、緑は地面と垂直に増殖していく。

荒川



南千住



西日暮里



東日暮里



南千住



東尾久



南千住



東日暮里





南千住



荒川



荒川



東日暮里



東日暮里



## 2 体験編

---

河野佳子（千葉大学建築学科大学院）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ -30-

野口創史（千葉大学造園学科4年）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ -32-

中村昌広（東京大学都市工学科大学院）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ -34-

荒川の緑を調査するという事で、地図を片手に初めてこのまちを歩いてみた。どうも、慣れない場所は恐ろしく、何も悪いことをしてないのに、初めはビクビクしながらの観察である。(実際、犬には何度も吠えられた)しかし、次第に慣れてきてだんだんおもしろくなってきた。感想を述べてみたいと思う。

#### 玄関と緑

各戸の玄関先には、緑とともに、いろいろな生活用具がはみ出している。自転車やリヤカーが植物の前に置かれていたりする。場所がないので必然的にそうなるのかもしれないし、それとなく植物を保護しているようにも見える。どちらにしても乗り物の固い感じのラインと植物の形が重なりあって、私には面白く思えた。それにしても、あの昔懐かしい茶色のサドルの自転車は、今どこで売っているのだろうか。

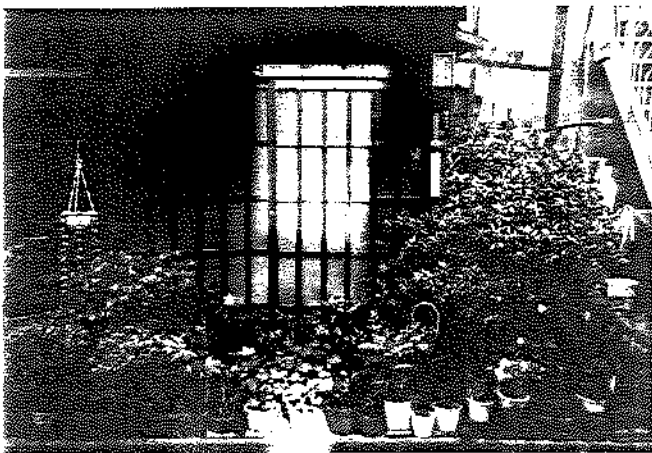
他にも、決して美しくはない土間ほうき、スコップ、傘、バケツ、がらくたなどが、植物が置かれることで、何となくその場におさまってしまっているようである。

玄関が引戸の家が多く見られたが、出入りをしない方の戸の前は緑に占領されている。(室内でも、2枚のふすまの1枚はタンスでふさがれることはよくあるが、それに似ている。)中には2枚の戸の前面すべてが緑でふさがれていて、出入りできないようなものもある。(おそらく、別の出入口があるのだろう)こうなると、玄関の意味というものが随分変わってきているように思える。少なくとも出入りという機能的な面での意味は重要でないような気がする。

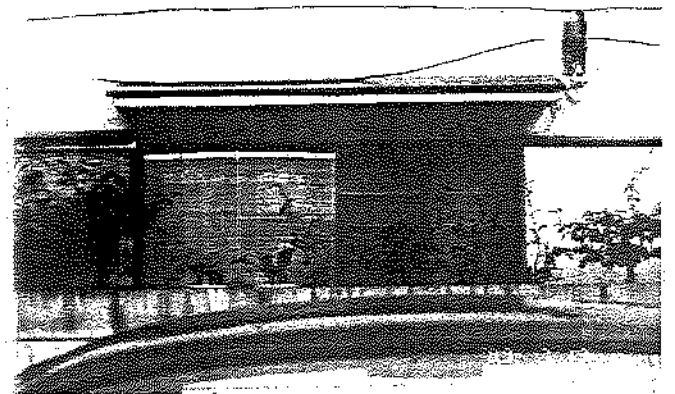
このあたりには、塀や門のない家も多い。植木鉢の緑はそれらに代わって存在しているようにも感じられる。また、塀のある家では、おもしろい植木鉢の置き方があった。偶然か、住人のねらいあってのことかわからないが、正面から見たとき並んだ植物の植木鉢だけが隠れるようになっているのである。塀の上から緑だけが顔を出しているように見える。



塀と門柱のような植物 荒川



玄関前を占領する鉢植 荒川



塀の上から顔を出した緑—植木鉢は隠れている 荒川



あけっぱなし

私が、このまちをビクビクしながら歩いたのは、私が臆病だったからだけではない。あまりにもあけっぱなしの雰囲気、ヨソ者を少し緊張させたのである。実際、家そのものもあけっぱなしで中まで見えてしまい、ちょっと目のやり場に困ることもあった。こういう雰囲気がかえって、人の視線をさえぎるという話は聞いたことがあるが、確かにそうだと思う。

あけっぱなしといえば、最近オランダの住宅のスライドを見る機会があったが、説明者の話だと、あちらでは、リビングルームは隠すものではないから、カーテンをひいたりせず、外からよく見えるようになっているという。室内は美しくしつらえているが、それをおおっぴらにするという精神

が、どうもエゲツないようにおもえる。荒川のあけっぱなしは、もう少し奥ゆかしい。玄関先をあけていても、のれんがあったり、薄暗く奥行があったりして家の中すべてが見えないし、戸を開けた玄関土間の真ん中にあざやかな花が置いてあったりして、まるで床の間のように視線がそこへ集中する。あけっぱなしでも、なんとなく恥じらいが感じられるのである。冷たい閉鎖性もないし、おしつけがましい（室内を披露する）開放性もない。

植物そのものの知識がないので皮相的なものに見方だったかもしれないが、緑が乏しいといわれる荒川的生活空間を、人々がどんなふうに移っているかを見たことは楽しい経験だった。



床の間のような玄関一花に視線が集まる 荒川

野口創史 (千葉大学造園学科4年)

三河島の駅周辺は、常磐線を利用する度に窓外の様子から、その雰囲気を感じていた。線路沿いに細長い公園を整備し、幹線道路の歩道の端ぎりぎりに街路樹を植え、狭い空間に何とか緑を確保しようとする行政の努力の跡があった。しかし、高みから見る光景から得た印象とは裏はらに、そこには住民の手による緑がひしめいていた。秩序というものではなく、鉢に植えられた緑は軒下、窓枠、塀の上、屋根の上、果ては路上にも、ポストの上にも置かれている。人間臭いというか、温かみがあるというか、住民が育ててきた緑の持つそのモザイク性は、今まで自分が見てきた緑とは異質のものであった。

マニュアルに沿って整備された街路樹は、道路のアクセサリであり、交通安全のための、または歩行者が緑陰を求めするための施設である。それらは整然と立ち並び、役目を果たしているが、そのためには十分な道路幅員と見通しが必要である。荒川区に緑が少ないといわれるのは、そういった緑を植栽できる道路が少ないためだろう。しかし、本当に区内には緑が少ないのだろうか。実際に歩いてみて、答えはNOである(と思う)。統計上の数値は低いが、そこには現われないヒューマンスケールの緑で荒川の路地は埋め尽くされていると感じた。机上で地域の緑被を表わしたときには出てこない小さな緑が集まり、人間の目には圧倒的な緑視となって映る。



街路灯にぶら下がる鉢植え

町屋



ガードパイプに盆栽棚・・・とられないように  
西日暮里 鎖でつないである

表通りから路地へ一歩足を踏み入ると、玄関脇からはみ出し、窓から顔を出し、壁におら下がり、頭の上から見おろし、ありとあらゆるところから緑が出迎えてくれる。それらは、おそらく通行人のための緑ではない。なぜなら、その迫力が通行人を圧倒するからであり、何よりも通行に支障をきたすぎりぎりまで、はみ出してしまっているからである。そこに住む人が自分の趣味として、あるいは自己満足のために飾りたてた代物だろう。それだけに緑の一つ一つに自己主張があり、モザイク模様をなして我が物顔に家々に張り付いている。

区画の整理がされていない荒川の街並みは、路地の幅員が狭く、見通しがきかない。それ故に、住む人の意識の中で路地は自宅の庭の一部であり、自己を主張する場となっている。そこに行く人は、公道を行くのではなく、隣人の、あるいは知人の、あるいは全く他人の家の庭を横切るのである。その時、緑は精一杯住む人を主張し、通行人は「荒川の人」を感じながら歩を進める。自分が訪れたときにもやはり、荒川の能動的な緑が、語りかけ、楽しませて

くれた。その世話をしていた60歳くらいの女性は、水をやりながら、70歳くらいの男性ははさみをいれながら、それぞれに語りかけていたし、40歳後半の女性は、自分がいかに花好きであるか熱弁をふるってくれた。そこに下町らしい情緒と、荒川気質を感じる。路地を散策するだけで生活感を感じ取れる、荒川のこんな街並みと緑を貴重なものだと思う。一度緑と街並みを見るためだけに荒川を訪れてみてはいかが？



荒川の街を歩いて緑についての文章を書くという依頼を受け、何となく引き受けたものの、後でいったいどういう視点で何を書けばいいんだろうとずいぶん困ってしまいました。街の緑に関していまだ言われていないことなんてほとんどないんじゃないかと思ってしまった。路地のヒューマンスケールの緑とか、道にはみ出した緑のアーキーな面白さとかについてありきたりの話をしてお茶をにごすことになるのかと、実はやや頭が痛かった。ところが、実際に緑に着目しながら歩いてみると、筆者はそういうふうに思い込んでいた自分の不明を恥じなければならなかった。

最初荒川すまいづくりセンターの真鍋さんが案内してくれた。センター周辺の道路は、かなり広く整っているのにはみ出しの植木が非常に多かった。真鍋さんにそのことを聞くと、「いや、このくらい当り前ですよ」と答える。いや、筆者の住んでいる文京区ではこんなことはない、家の庭に木はあるけれど、道路にこんなに植木鉢やらプランターやらはな

い。それから、文京区では商店の前には植木が出してあるところが多いけど、普通の住宅では少ないのだ。その水準からすると確かに異常である。

量が多く、植物の種類が豊富で、それぞれの美しさということのほかに植えかた、置き方の多様性もすごい。普通の鉢に植えて道端に置いてあるだけのもの、窓辺につるしてあるもの、植木鉢の下に水はけを良くするためか台が置いてあるもの、つるを窓にからませているもの、もっとすごいのはそのつるがプラスチック製のもの、道のまんなかに車止め状のものを立ててその上に植木鉢をはめこんだもの、などなど。植えかたについて統一的な美意識とかみてくれみたいなのはなく、ただただ緑と一緒にいたいという素朴な感じの造作。(写真1)



写真1 東日暮里

その日は前夜からの雨で蒸し暑く、人間の不快指数は高かったが、植物たちは逆に生き生きと、緑を濃く茂らせているようだった。こういう植物たちは人間が植え、増やしているはずなのだが、逆に植物自体が自分の生命力でもってぞくぞくと増えてくるような感じであった。雨が降るので歩いている人はほとんどいず、建物や道路は濡れ、けぶって存在感が遠のき、ただ植物の生命力が強く感じられるようだった。

ところがそのとき、ちょっと予想もしなかったものを見てしまった。(写真2)この、屋根に載せられた植木鉢は何なんだ？つるされたタイヤは？前に置かれた植木鉢も装飾というには異常な迫力だ？いったい何の役にたつんだ、どんな美意識にかなうんだ？いろんなクエスチョンがいっぱいわきあがってくる。でも、この家はそんなもんじゃなくて、何か一つの生命体のようにそこにある。住んでいる人と植物やタイヤやトタンを含んだ生命体。

筆者はこれを「ハウス「イオ」」と勝手に呼ばせてもらった。イオというのは木星の衛星の一つで、諸星大二郎というマンガ家の作品「生物都市」にちなんだものである。そのマンガでは、イオから特殊な細菌が地球にやってきて、多くの人々がそれに感染する。すると生物の体が機械や建物のような無機質のものと融合し、さらにお互いどうしも融合して、全体で一つの生命体を形づくる。個人は失われるが、その全体の部分として死もない幸福な生命を手にすることができる。(でも多分、植物から見ればくらの持っている国家や社会や人間関係は理解できないだろうな。彼らはもし何かを呼ぶなんてことができるとしたら、くらのことを「ハウス「イオ」」なんて呼ぶかもしれないな。)



それを見てから、いろんな植物の生きかた、みたいなものを考えてしまった。「イオ」の植物と対照的に、おとなしく庭のひとすみを与えられて満足しているものもある(写真3)。コンクリートの割れ目をつきやぶって生きようとし、でも枯れてしまったものもある(写真4)。植物にもいろんな人生があるなあ、と雨のなか思ってしまった。



すてきなお地蔵さんに  
出会いました。  
花がたくさん供えられていました。

### 3 談話編

---

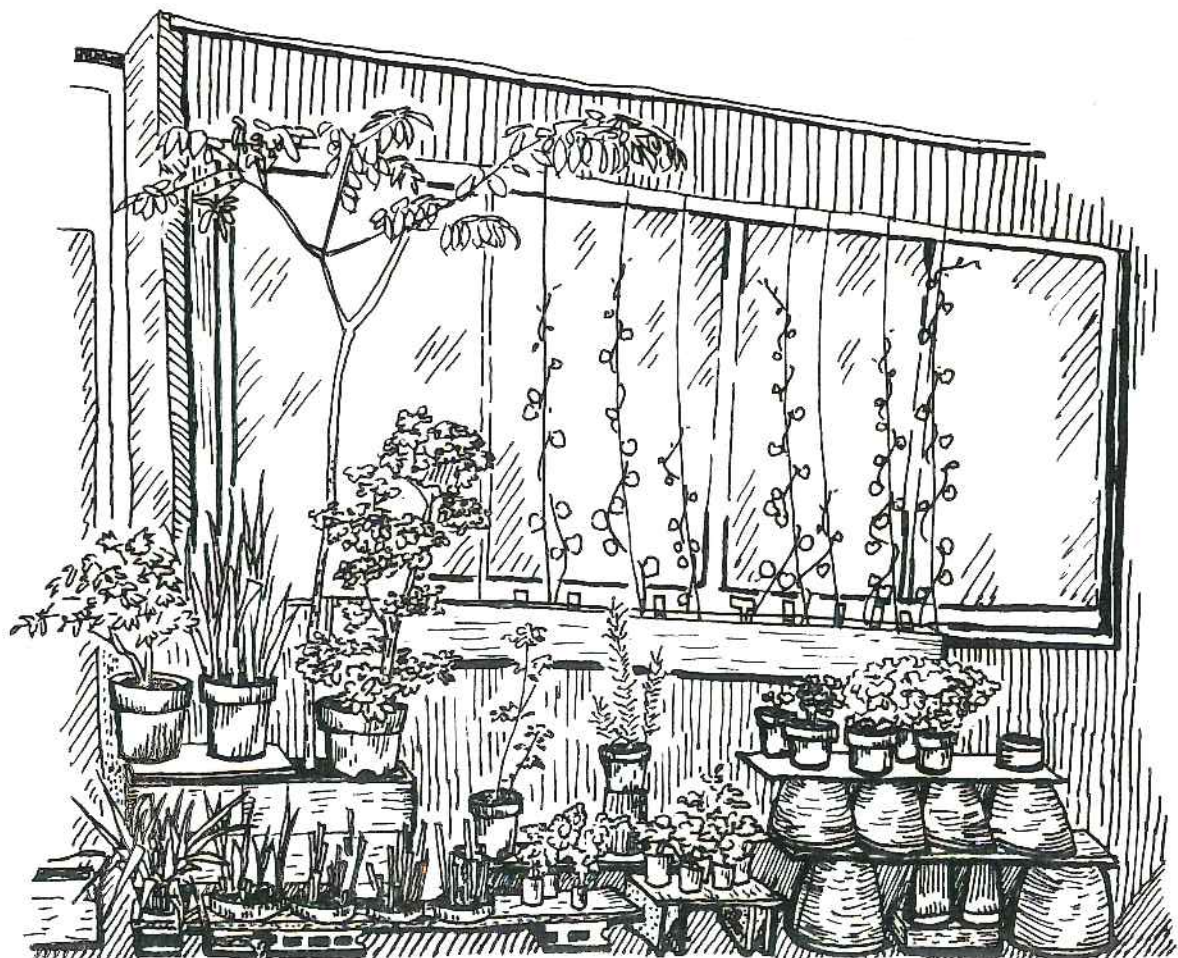
Kさん（荒川区荒川に住む植物の専門家。65才男性） . . . . .	-37-
大きな庭を持つ家（荒川区東尾久） . . . . .	-39-
Oさん（東日暮里園芸小屋の主） . . . . .	-41-
園芸店主人（西尾久） . . . . .	-43-
Wさん（園芸好きな普通のおばあさん。75才） . . . . .	-45-

## 荒川の人のお話し

Kさん（荒川区荒川に住む植物の専門家。65才）

・・・荒川の緑の特徴、というと？

下町と山の手で比べると、このあたりは植物で家のまわりを飾る、きれいにする、というよりも、植物を育てる、増やす、というところに主眼があるように思いますね。たとえば、朝顔市だ、ホオズキ市だ、といって鉢物を手にいれるでしょう、そういうのはたいてい売るときに状態が最高なんですよね。しかしここではそれを軒の下に吊して、盛りが過ぎたらはいおしまい、ってことはあまりしないですよ。地面にじかに植え替えたり、麻紐をずっと長く延ばして朝顔のつるを這わせたり・・・そうやっていつまでも育てる、残そうとする気質があるように思います。まあいって見れば少々せこいかもしれませんが、お金をかけないで楽しむ、ってことでは、なかなかの知恵者ですよ皆さん。だから植物を植える容器にしても、バケツ、トロ箱とかね、火鉢に水草を育てたりね。いろいろ工夫をするんです。



植える植物は、ただだっただらまあ、なんだっていいんです。それでどんどん増えるでしょう。そうすると水やってたりするときに、あっこれいいねとか近所にいわれるでしょう。そうすると、いいよいいよもってきなよって感じであげたりして、水は高きより低きに流れるで増えたものはみんなに分けて、又いっそう増えるんです。それに貰いっぱなしじゃあ悪いからってんで、お返ししたりするでしょう。だから誰かが白い花を植えたら、そのうちその横丁のあちこちに白い花が咲くようになる、ってことはよくありますよね。

・・・今と昔では？

そうですね。だいぶ変わりましたね。何ともいえないけれど・・・

夏になると道端に縁台を出して、将棋なんかさしたりしましたが、そういうとき傍らで夕顔がぼうっと白く咲いてたようなのを覚えています。昔はアサガオだとか、季節物が多かったですね。あとはハスだとか、クワイだとか・・・そうそうクワイに花が咲くのを知っていますか？これは滅多に咲かないんですが、これを咲かしてみんなに自慢したりしてね。今ではお金の出るようなことはあまりやらなくなりましたね。ナスとかキュウリを植えるようなことは、戦前ではあまりなかったです。



それとね、緑の協定ですか、家の前にも世話してくれって来て置いてあるけど、あんなこと考えも及ばなかったですよ。ここは西日が当たるとかね、そういう場所の特徴があって、各人各様の工夫があってね、それなのにああいうユニフォームというか、お仕着せというか、ああいうのを持って来られたんじやあね、うまくないなあと思うんですよ。



## 大きな庭を持つ家

K宅 荒川区東尾久

こんなに立派で由緒正しげな門は、お寺を除くと生まれてこのかたくぐったことはなかった。どこを開けていいのかうろたえました。庭に一步入ったらそこは巷とはまったく別な、しっとりとしてかつ芳潤な空気で満たされており、うーん違うもんだと唸ったとたん、大勢の蚊の出迎えを受けてしまう。

・・・すごい蚊ですね（といいつつ、しましまの凶悪そうな奴が、腕に3びき、足に5匹くらいとまわってうろたえてる。ばしんばしん）

そう、ここはすごいよ。ほらほら、どんどんおっぱらわなくちゃ食べられちゃいますよ。とくにね、お客さんが来ると珍しいってんで一気にたかられるんですよ。もうわたし達はね、あんまり食べられないんだけど。もう飽きちゃったのかしらね、きつと。

・・・毎年こんなにすごいんですか？

ええ。池があるわけでもないのに、不思議ですよ。ね。（必死で蚊と戦っている私をよそに、奥様は涼しい顔で笑っている。）

・・・他に虫がたくさんきいたりしますか？

ええきますよ。蝉がね、もう鳴いていい時分なんですけど。今年はいったいどうしちゃったのかしら。毎年、もううるさいくらいミンミン鳴いてたんだけど、今年の一つも鳴かないんですよ。いつもね、ここはお祭りが8月の15、16にあるんだけど、そのお祭りのころはね、オーシツクツクとかね、大合唱なのに今年は寂しくて。

もうちょっと昔だとね、カミキリムシとかもきいたりして、ほら、うちは木がたくさんでしょう。



・・・鳥とかは？

オナガがきます。ほかにはヒヨとか、キジバト、メジロとかね。スズメもちろんきます。でもオナガが一番目立つかな。あの鳥は姿が美しく、はっと目を引くのと、声がギャアギャアやかましいからね。良いところでも悪いところでも目立つんです。裏で餌付けもしているんです。朝早くからギャアギャア催促するのよ。ご飯粒よりもね、パン屑のほうが好きなの。鳥も洋食のほうがいいのかしらね。でもお盆を過ぎるとみんな何処かへいってしまうの。

あとトカゲとか、ヤモリとかもね、2、3年前まではいたんだけどね。もう見えなくなってしまいました。ガマガエルはいます。たまごを産んでね、子供が水槽にいれてかえしたんだけど、小さい蛙にはなったけどね、みんな何処かへいっちゃった。



・・・木がいっぱいあって涼しいですね？

ええ、風通しはちょっと悪くなるんだけど、アスファルトの照り返しがないぶん涼しいわね。毎年お盆のころに職人さんにきてもらうんだけど、手入れをしてもらうと、大部さっぱりして風も通ります。ひところは冬になる前と夏のお盆と、年に2回きてもらっていたんですけど、もう職人さんも減ってしまわれてね。年に1度がやっとなんですよ。

・・・普通日常的にはどんなお手入れをなさるんですか？

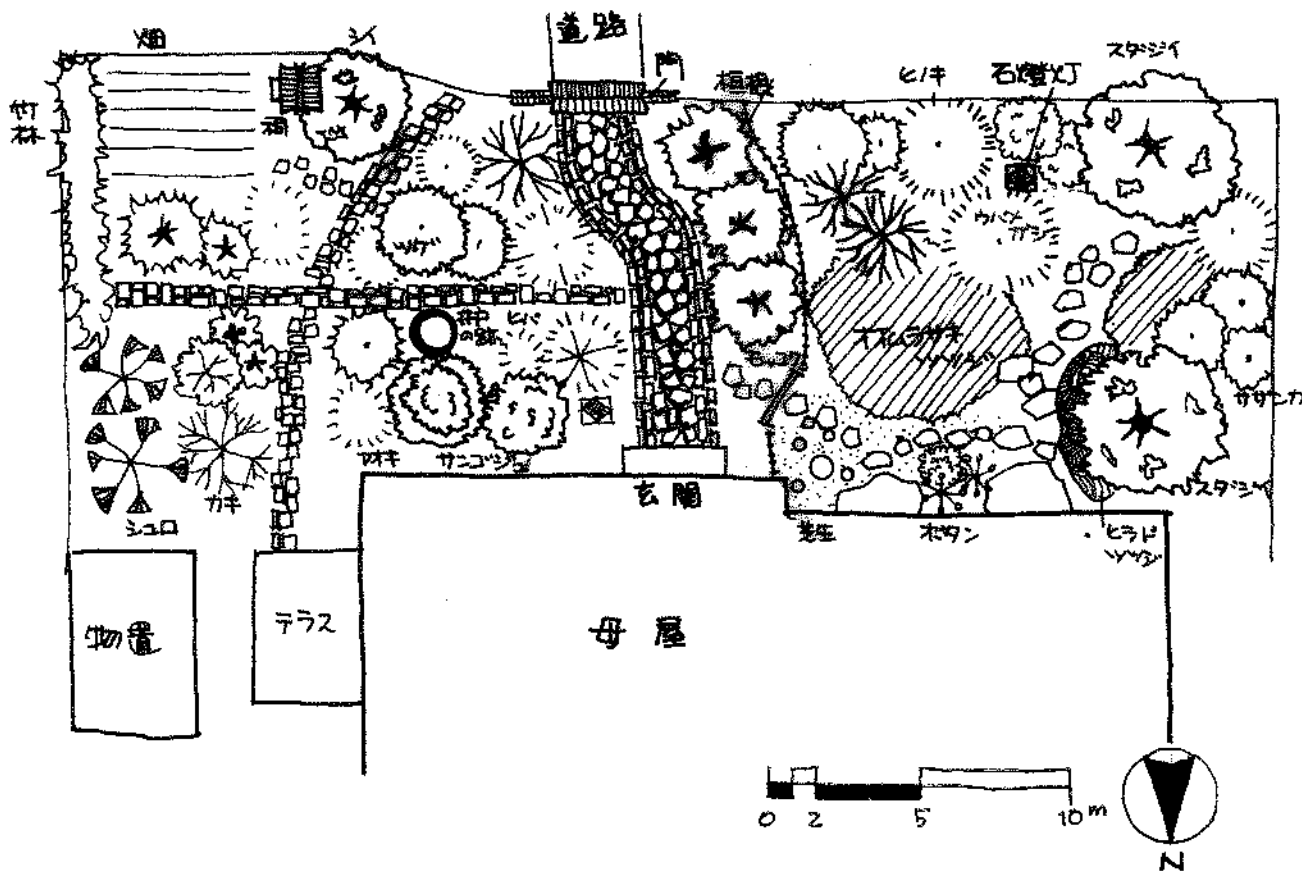
お手入れだなんて・・・そうたいそうなことはしませんよ。水やりとかもね、ほっといて平気だから、自然に任せてほとんどやらないんです。草取りが一番手間で、きついわね。あと落ち葉を掃いたり、落ち葉は腐らせて肥料にしていたんですけど、この頃は虫が湧いてしまうのでやっておりません。

・・・あちらに畑が見えますけど肥料は畑に？

ええ、ほんの遊びでやっているんですよ。土のことも専門の先生に聞いたりして、いろいろ試してみてるんだけど、結構むつかしいのね、野菜をつくるのって。今は腐葉土を買ってきてつかっています。いまだとキュウリ、ダイズかな、そう枝豆にしてね。秋はコマツナ、ホウレンソウがいかしらね。ううん、八百屋さんにはいなくて済むなんてとてもとても。

・・・季節的にはいつがよいのですか？

うちは常緑の緑ものが多いから、花の咲く木は少なくてね、花満開の庭、ってのじゃないけどそう、ツツジのころは華やかです。むかしはね、もっと大きな、立派な木がいくつもあったんだけど、公害でみんなやられちゃってね。たいへんだったんですよあの頃は。このあたりにも畑がいっぱいあったんですが、お百姓さんの畑もみんな駄目になってしまって。もうそんな面影のこってないけどね。



○さん（東日暮里園芸小屋の主）

・・・屋根の上の植物にはどうやって水をやるのですか？

たった今やり終えたところです。ホースをつなげて、ばあっとまいちゃうんですよ。ジョウロで水を汲んで梯子を登ったり降りたりで、屋根から地面からいったり来たりじゃあかなわないからねえ。横着者なんです。雨が降ると一発なんだけどあっはっは。

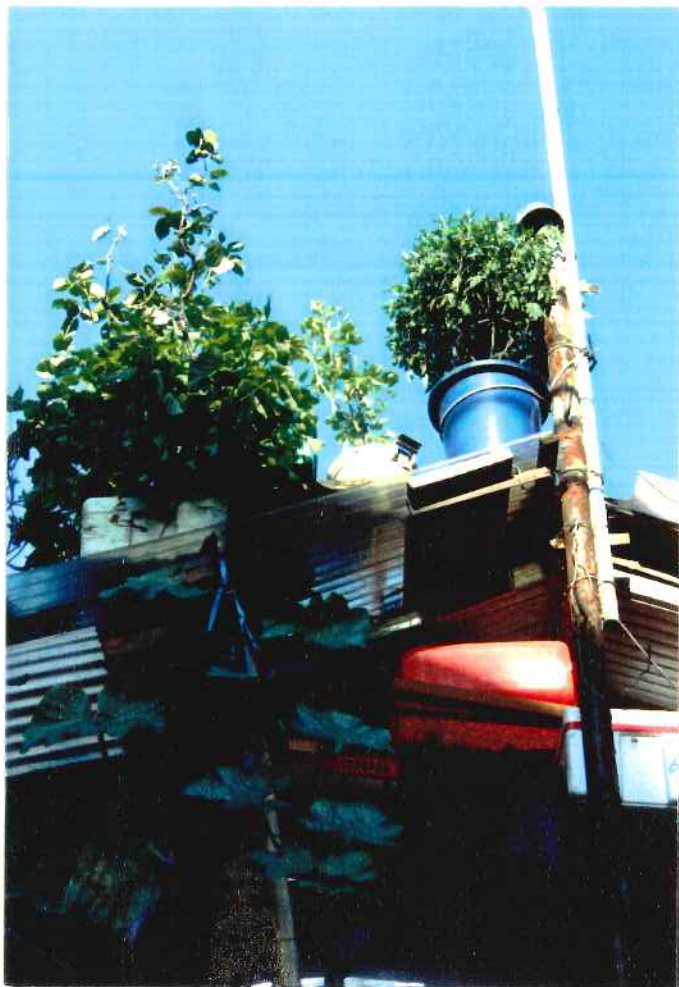


・・・ずいぶん沢山ありますけれどどうやって増えたのですか？

なあに、昔からある物ばかりですよ。このアサガオだってもう40年くらいになりますよ。そう、毎年種を獲っておいて、次の年に又蒔くんです。ええ、ちゃんとおっきな花が咲きます。朝来て見ればとてもきれいですよ。

あその雨どいにヒ??が生えてるでしょう、あれも雑草だと思うかもしれないけれども、わざと獲らないでおいてあるんですよ。だいたい、自然に生えてきたものを自然に育てているだけなんです。風で飛んでくるやら、小鳥が運んでくるやらで、結構あれこれ生えてくるんですよ。横着者ですからねあっはっは。珍しいものなんてひとつもありませんが、ただね、昔からあるものを大事に育てるのは、なかなか骨が折れますよ。

あそこに干してあるのはゲンノショウコです。そう、薬になるんですよ。でもね、あれは初めてやるものだから、効くかどうかはね、わかりませんけど。



屋根の上いっぱいつけてるのだからね、ただのせてると思ったら大間違いで、屋根上の波板が飛ばないように、押えるためでもあるんですよ。無理してきれいに整えるんじゃなくてね、なにかしら役立つようにね。いろいろ考えてやってるんです。

・・・このあたりは土が少ないですけど、土はどうしているんですか？

土はつくるんです。こうやってそこらじゅう掃除してまわってね、ごみを集めるんです。あと余分な葉っぱとかを取っておいてね、そうして溜めといたものにね、今度はあっちのパン屋さんから、パンの残ったのやらなにやらを貰って来て、よく混ぜてから寝かすんです。そうね、2、3ヵ月でもって土になるかな。それを石灰でもって消毒したものを使うんですよ。



(ヒアリング中、Oさんはブリキ缶でつくったチリ取りを片手に、近所いったいを掃きまくっていた。その範囲があまりに広いので不思議だったのですが、これで謎が解けました。)



## 荒川区内の園芸店御主人のお話し

・・・鉢植えがあまり見えませんか？

うちはね、売上げの80～90%とほとんど切り花なんです。こう言うのはお店の性格にもよりますが、人をつかって商売をするのだったら鉢植えではやっていけません。切り花の需要のほうが圧倒的に高いですよ。

・・・と、いうのは、ここ荒川の特徴なんですか？

そういう訳でもないでしょう。ただね、土地が狭くて場所が無いから、植木なんか買ってもしようがないってのはあるでしょうね。都会は大体そんなものだと思いますよ。切り花の需要が高いってのはね、要するに仏様にお供えする花なんです。仏花と言うんですけど、これが切り花の売上げのうち、そうだなあ、7割くらいになるかなあ。たいていのうちに仏壇があるでしょう。

(そう言えば菊の花が店内の大きな場所を占め、よい匂いがしている。)

最近ではギフト物ってのもだいぶ増えましたけどね。そう、誕生日とか、卒業式とかね。ただ花屋が言うのもなんなんですけど、日本では花の値段が高いですよ。ほら、ちょっとどこかに御邪魔するのに手土産持って行くでしょう。外国ではそういうときはたいてい花をもっていくんですね。だけどちょっと見栄えのするような花束をつくったら、5千円1万円しちゃいますもんね。だったら2、3千円でケーキ買ったほうがいいでしょう。みんなお金をかけて花を買おうなんて発想はないですよ。だからそんなに特別にお金かけるんじゃなくて、日常的に気軽に花を飾ればいいんですよ。安くてもきれいなのが飾れますよ。花ってのはね、とりあえず飾って見るとね、良さがわかるんです。特に若い人にね、花の良さ、価値をわかって欲しいですね。



街かど仏壇—西日暮里

・・・鉢植えてのは路地に並べられたりして、街を歩いていても鑑賞？できちゃいますけど、切り花はやはり家の中だけのものなのではないでしょうか？

うーん、外国では窓辺にきれいに花を飾りますよね、私も若い頃にドイツを旅行したことがあるのですが、ほらロマンチック街道ってあるでしょう、あちらの花でいっぱい家の美しさってのはちょっと忘れられませんよ。やっぱり花はね、人の心にね、潤いを与えるんです。荒川にもね、ああいうのを持って来なくちゃ。だからね、いま尾竹橋のマンションとかでも壁にツタをはわせるとかさ、いろいろ出てきてみたいけど、そういうのもっともってやればいいんだよ。たとえばペコニアとかね、あんなの繁殖力が強くてどんどん増えるんだから、ペコニアでいっぱいのマンションとかね、あってもいいんじゃないかと思うよ。住宅もほら、花を飾れるような出窓をつくったりしてさ、そういうのがいっぱいできればいいなあと思うけど、やっぱり場所がないからね。そんなの造るんだったらほかのことにつかっちゃうよね。とにかく荒川区民がもっともって花に親しまなきゃ。さっきもいったように特に若い人がね。

昔に比べるとお客さん、横着になりましたよ。一時はね、園芸ブームだとかで、苗物っていうんですけど、植物の苗から育てるものがずいぶん売れたことがありますけどね、最近はどうでもないですね。まあ、それだけ趣味として園芸が行き渡ったってことにもなるのでしょうか。



花で飾られた窓辺—ドイツ

・・・お客さんの年代とか、どんな感じなんでしょう？

ピンからキリまでだけど、7割くらいが中・高年層ですよ、そりゃそうですよね、やはりお供えが多いでしょう。ただ観葉植物とかね、最近増えてきたものだけど、これなんか若い人に人気があります。けどさ、区がやってる苗木配布とか、植木市とかすごく人気あるけど、若い人なんてほとんど来ないものね。時間帯のせいもあるけれどもおじさんお婆さんばかりだよ。苗木配布が人気なのは、なんてたって、ただだからね。でもさあ、結局場所がないじゃあ苗木買って来たってどうしようもないからねえ。いいことだとは思いますが、もうひと工夫欲しいところだよ。

Wさん 園芸好きな普通のおばあさん 75才  
最近建て替えのため長年住んだ家（東日暮里）を出て、  
現在はアパート（荒川）住まい。

・・・前の家にあった植木は全部もってこれたんですか？

とんでもないよ、これなんかね、ホンの10分の1くらいだよ。置く場所がないものもあるしね、なんにしろ持って来るのも骨だからねえ。だからあたしはまだ、銭湯は前の家の近く迄行ってんだけど、その帰りにね、1つか2つ持って帰るようにしている。今日はね、キョウチクトウがきれいだったからね、あれは根っこごと持って来る訳にもいかないからね、枝を折って、その辺の草も一緒にとって、ここに生けてあるでしょ。あのキョウチクトウはね、だいぶ前だけど、おそばやさんあるでしょ、そうそう大国屋さん、あそこから枝をもらってきて、挿しといたのが大きくなってね、今じゃあんた、本家本元よりも大きくなっちゃったよ。あの辺（前の住まいの近く）にはね、なんだかんだであたしの植えた木がたくさんあるよ。



部屋のなかに飾られたキョウチクトウ



残されたキョウチクトウ



以前の住まい



・・・土をつくっているって聞いたんですけど？

あんだ。そんなの当たり前。だれでもやってることです。最近の人はどうか知らないけどね。このあたりでは土が少ないのに加えて、肥えたいい土がないの、そしたらつくるしかないでしょ。私は母親のやってるのをみてね、覚えたの。そうだね、私はトウモロコシの葉を良く使うね、この頃は米の飯を食べないで、こればかり食べているのよ。この葉を小さく切ってね、底に敷いて、その上にそこから集めてきたホコリやゴミをね、そう、チリ取りとホウキで集めてね、それをトウモロコシの葉の上に置いてやるの。

その上にまたトウモロコシの葉を敷いて、それから残飯ね、これも塩抜きして加えてやります。塩抜きはね、水にしばらくつけといて、ざるに上げて洗い流すんだよ。そしてまた、トウモロコシの葉を敷いて・・・と繰り返していく。いい土ができるまで半年以上はかかるね。

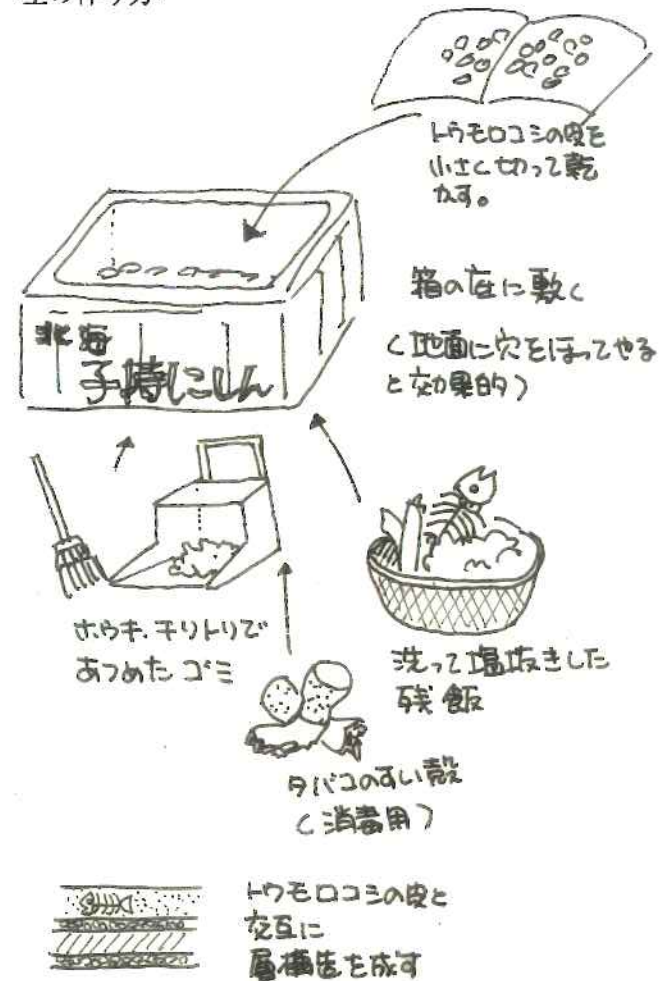
・・・それは箱のなかでやるんですか？

そう。前の家だと地面があったからじかに地面に作っちゃってもよかったけど、ここだとそうはいかないわね。でも穴を掘って、その上に土をかぶせて寝かせておくのが一番いいんだよ。ただね、その場合には、犬だの猫だのがほじくり返すからね、上に植木鉢を置くのを忘れないこと。それとね、3尺より深く掘る場合は方位をみなきゃ駄目。ほんとだよ、死人だってでたんだから。



トウモロコシの葉 小さく切ってある

### -土の作り方-



・・・虫が湧きませんか？

湧く湧く。それはね、タバコを使うんだよ。タバコの葉で消毒するの。燃えかすでもいいし、まだ吸ってないシケツた奴とかね、巻紙なんかも全部入れる。なんだってね、ビニール以外は土になるんだから、なんだって利用しなくちゃね。でもね、土のなかに虫がいるってことがその土の栄養を語っているんだから、全部殺そうなんて考えちゃあ駄目。虫のつく野菜をつくらなくちゃ駄目なんだよ。よその人はたいてい殺虫剤を使うけどね、あたしは絶対使わないよ。だからよその虫が全部家に来るの。けど虫が大切でもあるんだよ。それを忘れちゃ駄目。どうしてって、健康が一番よいから植木やってんのに、殺虫剤かぶったらそんなの、本末転倒っていうんですよ。わかる？悪い虫を殺すよりも、いい虫と生きることを考えるね、私は。ミミズなんかは最も大事。



・・・他に肥料とかは？

この土ができると肥料なんかいらぬ、こわいものなすだよ。でもなんでも肥料に使う。この鉢の中にも煮干しだの、カツオ節のだしがらだのが入ってるよ。古くなってしけたカツオ節が丸々一本入ってるのもあるよ。あたしは残パンは決して捨てない。みんな土に使う。

・・・日常の手入れは、草取りや水やりとかですか？

あたしは草取りはしない。雑草も必要なんだよ。そりゃああまり繁るとよくないから間引きするけど、全部取るようなことは決してしない。そのバランスがね、頭の使いどころなの。植木も、雑草も、虫も、あたしも、みんながと共に生きるって発想が大事。この頃の人はそのこと考えないけどね。雑草があるために本体も生きるんです。太陽の光線が強すぎるのを柔めたりね、あとね、根っこもあった方がいいんですよ。それに大きくなって枯れたときのこと考えなくちゃね。雑草の葉は肥やしに、軸（茎）も乾かして支柱にしたり、はしにしたり、なんでも無駄なく使うの。なんだってね、捨てるのは簡単。誰でもできる。一見無駄なものをね、どうやって利用するかが頭の使いどころなんだよ。あたしはそういうのにかけては誰にも負けない自信があるんだ。水も水道の水を直接使うなんてのは愚の骨頂ね。洗い物をした後の水とかをためといて、ううん、洗剤は使わないから、それをひなたにだしといてね。冬はひなた水は絶対だね。



タライに置かれた植木

タライには水が張っており、湿地性のもの、根の浅いものはここに置かれる



鉢に埋め込まれたトウモロコシの芯



健やかに育つ雑草

・・・いつ頃から、どういうきっかけで植木いじりを初めたんですか？

そりゃ、いくらあたしでも娘の時分からこんなことはやらないよ。60位になってから腰をいためてね、こりゃあ気だけ若くても、体はどんどん老いぼれていくなあと気がついて、健康法ではじめたんだよ。植木いじりは健康には一番ですよ。何てったっけね、何とかいう九州の女流作家の先生も、目を悪くしたんだけど畑仕事をして直ったというんだからね。結局、青いものは酸素を出すから、それが体のためにいいんだろうね。実際あたしは植木いじりをしていると、腰の痛いのを忘れてやるし、体も軽くなるよ。良い運動になるし、ほら、しじゅうあれはこっちに置いたほうがいいや、それはこっちに持ってこようとか移動したりしてるから、痛い部分のいいマッサージにもなるんだろうね。

あんたもね、気が若いのはいくら若くても構わないけどね、体はきっちり歳を取るんだから、腰だけは冷やすんじゃないよ。わかった？



## 荒川緑図鑑 調査ノート

---

発行日	平成元年 8 月
編集・発行	荒川探偵団 真鍋千恵子／藤沢毅
連絡先	〒116 東京都荒川区西日暮里 2-7-3 小林ビル 1 階 (株) 荒川すまいづくりセンター気付